

令和5年度

地域共生社会づくりのための
市町村社協活動支援事業
報告書

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

目 次

1	はじめに	P 1
2	指定社協の取組	
	不登校・ひきこもり当事者とその家族支援プロジェクト	
	大牟田市社会福祉協議会	P 2
	人生あんしん事業 ～あなたらしい将来を迎えるために～	
	久留米市社会福祉協議会	P 18
	学びなおし応援セミナー	
	筑後市社会福祉協議会	P 30
3	実施要綱(抜粋)	P 38

はじめに

社会情勢の変容により、地域社会の関係の希薄化、家族形態の変容を背景に、地域では孤独死やゴミ屋敷、不登校、ひきこもり、８０５０問題、貧困や所得格差等、現行の制度だけでは解決が困難な複合的な地域生活課題が増加しています。これらの課題は様々な問題が絡み合い複合化しており、対象者ごとに縦割りされた従来の支援制度では、解決が困難といった公的支援制度の課題も浮き彫りにしました。

複合化・複雑化した地域生活課題の解決に向けて、住民主体の視点を持ちながら専門的支援が可能な社協は、「協働の中核」としての役割を発揮し、様々な関係者の参加と協働によって、身近な地域での支え合いの仕組づくりを推進することが期待されています。

このような中、本会では、市町村社協が地域の福祉課題・生活課題を捉え、地域住民や行政、関係機関等と連携して各地域における課題解決に向けて取り組み、支え手と受け手、人と資源が循環し、全ての住民が住み慣れた地域で安心して生きがいを持って暮らせる地域共生社会づくりを目的として「地域共生社会づくりのための市町村社協活動支援事業」を行っています。

令和５年度は、「地域共生社会の実現に向けた、人と人とのつながりを支援する活動」をテーマとして、地域生活課題を抱えた人・家族に対して、関係機関や団体と連携した支援や居場所づくりといった幅広い活動に取り組んでいただきました。

本報告書は、本事業における取組内容や成果・課題を発信するもので、今後、県内での地域福祉活動の参考となれば幸いです。

結びに、本事業に取り組んでいただいた３市社協の役職員の皆様をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます。

令和６年９月

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

不登校・ひきこもり当事者と その家族支援プロジェクト

社会福祉法人 大牟田市社会福祉協議会

1 事業の目標

- 不登校・ひきこもり当事者やその家族を含め、不安を抱えている人々を受けとめる相談体制を多機関協働で整備し、安心して過ごせる居場所や自らの役割を感じられる機会をつくる
- 不登校・ひきこもり当事者やその家族の声を傾聴しつつ、より質の高い支援ができる人材（ピアカウンセラー・市民サポーター等）を増やしていく

2 現状把握

【現 状】

本会は、生活困窮者自立相談支援機関として、生活全般にわたる困りごとについて一人ひとりの状況に合わせた支援プランを作成し、支援員が相談者に寄り添いながら、専門機関と連携して、解決に向けた支援を行っている。しかしながら、ひきこもり状態にある人やその家族は、それぞれ異なる経緯や事情を抱えており、状態の長期化、家族の閉塞感、さらには将来への不安、偏見等に対して苦しめられている。

そのような状況の中、現在の生活困窮者自立相談支援機関では、ひきこもり支援に限界を感じており、不登校・ひきこもり当事者とその家族支援に特化した組織の立ち上げや様々な関係機関・団体等と連携する等の一定の知識と経験が不可欠だと考えている。

【地域資源】

- 子ども家庭支援センターあまぎやま
- 訪問看護ステーション
- 大牟田市障害者協議会
- 地域包括支援センター
- 福岡県社協
- 校区社協・民児協・まちづくり協議会
- 福岡県精神保健福祉センター
- 大牟田市ボランティア連絡協議会
- 筑後市・うきは市社会福祉協議会
- 大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会
- 障害者就労自立支援センター
- 大牟田市居住支援協議会
- 老人クラブ・母子会
- 大牟田市教育委員会
- グリーンコープふくおか
- 大牟田学校へ行かない子を持つ親の会「ふきのとう」
- 福岡県ひきこもり地域支援センター
- 筑後若者サポートステーション
- 大牟田市子育て支援ネットワーク
- カウンセリングルーム・フリースクールソフィア
- 大牟田ブリッジ
- 大牟田市保健福祉部福祉支援室福祉課

3 具体的な活動内容・活動効果

活動内容

孤立防止や地域とのつながりの再構築等、ひきこもりに特化した初期相談窓口を生活支援相談室に置き、以下の事業を実施した。

(1) 本会内にひきこもり支援員を1名配置

不登校・ひきこもりに関する相談支援やひきこもり家族のつどいの運営、進路相談会やひきこもり支援セミナーの準備・運営、ネットワーク会議やスクールソーシャルワーカーとの意見交換会の日程調整・準備など、不登校・ひきこもり支援全般に関わる役割を担当した。

【活動効果】

- 配置した支援員は自らが「学校に行かない子を持つ親の会」の代表であり、本会では、当事者及びその家族に寄り添うことができる人であると思い、支援員として配置した。
- ひきこもり支援に関しては、本会も本格的に取り組んでまだ2年であり、様々な経験を持つ支援員の存在は、他の相談員にも心強い存在となっている。

(2) 大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議を年4回開催

資料①(P10)参照

【大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議構成団体】

- ① 大牟田学校に行かない子を持つ親の会「ふきのとう」
- ② 「8050問題」学習会実行委員会
- ③ 子ども家庭支援センター「あまぎやま」
- ④ OMUTA BRIDGE (大牟田ブリッジ)
- ⑤ 大牟田市障害者協議会
- ⑥ 筑後若者サポートステーション
- ⑦ 大牟田市社会福祉法人地域公益活動協議会
- ⑧ 大牟田市民生委員児童委員協議会
- ⑨ 大牟田市教育委員会
- ⑩ 大牟田市保健福祉部福祉支援室福祉課
- ⑪ 大牟田市社会福祉協議会



大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議の様子

【大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議開催状況】

回 数	開催日	議 題
第1回	5月24日	①ひきこもり支援プロジェクト及びこれまでの経過について ②令和5年度ひきこもり支援ネットワーク会議スケジュール（案）について
第2回	8月25日	①ひきこもり支援セミナーの開催について ②進路相談会の開催について ③スクールソーシャルワーカーとの意見交換会について ④先進地視察について
第3回	10月17日	①不登校・ひきこもりの人を持つ家族会について ②ひきこもりサポーター養成について
第4回	2月21日	①令和6年度事業計画（案）について ②令和6年度収支予算（案）について

【活動効果】

当事者（家族）団体及び支援団体が一堂に会し、それぞれの団体の活動内容等を理解することにより、不登校児童・生徒（家族含む）の支援と義務教育終了後のひきこもりの人（家族含む）の支援を個々に行っていた団体が連携して、それぞれの機能やネットワークを活用できるようになった。

(3)「不登校・ひきこもりの人を持つ支援セミナー」の開催

資料①(P10)、資料②(P11)参照

不登校・ひきこもり支援に関心のある市民を対象に、ひきこもり支援の基礎知識を学び、理解することを目的として開催した。

講演では不登校・ひきこもりの現状や背景の説明から始まり、先生の体験談を交えた上で、本人や家族と向き合い支える「今の時代を生きている仲間」としての支援方法や基本姿勢を分かりやすく説明していただいた。

開 催 日／10月3日

会 場／大牟田市総合福祉センター

内 容／講演：「不登校・ひきこもりの基本的理解とその支援」

講師：教育文化研究所代表 長阿彌幹生さん

参 加 者／58名



【活動効果】

- 講座を通してひきこもりに対する理解が参加者に伝わったと思われる。参加者は支援者側の人が多かったが、この講座は次年度に実施予定の「ひきこもりサポーター講座」のプレイベント的要素も含んでおり、アンケート回答では、「今後も継続して受講したい」との声（22名）が寄せられた。
- 講座において「ひきこもりが悪いのではなく、ひきこもりを悪いと思っている社会が悪い」という先生の言葉などが参加者の心に響いた講座となった。

※参加者アンケート結果は、資料③(P12～13)参照

(4) 高校進学・高校生活に不安を抱く人を対象とした「進路相談会」の開催

資料①(P10)、資料④(P14～15)参照

開催日／10月15日

会場／大牟田市総合福祉センター

内容／定時制、単位制、通信制高校及びサポート校からの学校説明及び個別相談会

参加者／88名

参加校／8校

【活動効果】

- 参加者は、熱心にメモを取りながら聞いていた。
- 通信制の現役高校生が話す場面になると、顔を上げて聞き入っている様子から、大きな関心が寄せられていると窺えた。
- 高校進学・高校生活に不安を抱く人を対象とした「進路相談会」では、興味をもったブースに足を運び、詳しく教育理念やカリキュラムなどの質問をされており、多くの相談が寄せられた。

※参加者アンケート結果は、資料⑤(P16～17)参照



学校紹介



個別相談会

(5) スクールソーシャルワーカーとの意見交換会の実施

資料①(P10) 参照

ひきこもり支援ネットワークメンバーとスクールソーシャルワーカーがそれぞれの活動を理解することを目的に開催した。

開催日／10月17日

会場／大牟田市総合福祉センター

内容／説明：大牟田市における子どもたちを取り巻く現状について意見交換、質疑応答

参加者／スクールソーシャルワーカー 2名

ひきこもり支援ネットワークメンバー 8名

【活動効果】

- ひきこもり支援ネットワーク及びスクールソーシャルワーカーの活動について相互認識を深め、今後の活動の中で協力し合える関係構築ができたように感じた。
- 不登校の子どもが抱える問題は、本人のみならず家族全体、そしてその家族を取り巻く生活環境全体に目を向けた上で、困りごとを把握していくことの大切さを再認識した。

(6) 先進地視察研修の実施

ひきこもり支援について今後の参考にするべく、官民協働でひきこもり支援を展開している岡山県総社市社協を訪問し、先進的な取り組みについて視察研修を行った。

実施日／3月12日

内容／①総社市におけるひきこもり支援の実践

②居場所「ほっとタッチ」見学

【活動効果】

- 「ひきこもり問題は社会が悪いため、市が責任を持って住みよい地域にする使命がある」と公言する総社市長のもと、ひきこもり支援に取り組んでいる総社市社協の事業について学ぶことができた。
- 意見交換の場では、『大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議』について、総社市社協の担当者の方から「これだけの団体が入っていることは凄い。ひきこもりの人も市民の1人。その人たちが社会に参加できるようになれば就労に繋がるかもしれない。それはすなわち市にとって税収に繋がるかもしれない大切な人。そのことを行政に理解してもらい、行政として責任を持って取り組んでいくという考えを持ってもらうために、ネットワーク会議で議論し、市の施策に盛り込み、助成してもらえるように頑張ってください」との言葉をいただいた。
- 居場所「ほっとタッチ」は社協近くの一軒家を借りて常設の居場所を開設し、市民サポーターの協力を得て運営されている。その運営方法や掲示物・書類など、本会が令和6年度から居場所を開設するにあたり学ぶことも多く、大変参考になった。

(7) 「不登校・ひきこもりの人を持つ家族のつどい」の開催

不登校・ひきこもりの人を持つ家族を対象に、ひきこもりへの理解を深めるための学習会の開催や家族同士がざっくばらんに悩みを話し合い、体験談を語りながら意見交換、情報交換などを行い、親睦を図ることを目的に開催した。

開催日	参加者数	開催日	参加者数
6月23日	6家族7名	12月8日	3家族4名
7月28日	7家族8名	1月12日	5家族8名
9月8日	7家族8名	2月9日	4家族6名
10月13日	6家族7名	3月8日	6家族8名
11月10日	8家族9名		

【活動効果】

- 同じ立場である家族がお互い自分の思いを出せ、共感しながら聞いてくれる場所を提供することにより、参加者のストレス解消につながったのではないかなと思う。
- ひきこもりの人に対して、「仕事してお金を稼いでこい。いつになったら自立するんだ」という考えを持っていた人が、他者の話を聴くことで少しずつひきこもりに対する考え方が変わりつつあるように感じている。
- 当事者家族が本音を言える場ができたことは、他の支援機関からも「紹介できる場ができ、家族支援の選択肢が増えた」との評価もいただいた。

(8) 福岡県ひきこもり地域支援センター主催「ひきこもり家族のつどい」への参加

本会が実施する「不登校・ひきこもりの人を持つ家族のつどい」の開催にあたり、運営方法を学ぶことを目的として、「ひきこもり家族のつどい」の毎月の定例会にひきこもり支援員が参加した。

【活動効果】

- 毎回20人程の参加があり、内容は学習とフリートークの流れで開催されていた。
- 参加されたご家族の話で様々な状況を知ることができ、毎回の学習はとても勉強になり、運営面でも参考にさせていただくことができた。
- 県のひきこもり地域支援センター職員とも顔見知りになり、県の学習会の講師を本会の「つどい」にも講師として招いたり、県主催の講演会の案内をいただいたりと色々な繋がりの中で相談させていただくこともでき、とても心強く感じている。

4 地域等の変化

- セミナーの受講希望者が予想よりも多く、不登校・ひきこもりに対する市民の関心の高さが感じられるとともに、セミナー終了後のアンケートで不登校・ひきこもりサポーター講座受講希望者も約20名いたことから、不登校・ひきこもりへの理解が深まったと感じた。
- スクールソーシャルワーカーと意見交換を行うことでお互いの役割を理解し、情報交換を行うことにより、不登校期の児童・生徒から義務教育終了後の人へのサポートをスムーズに行えるのではないかと考えた。
- ひきこもり支援ネットワークメンバーはそれぞれの機関で支援を行ってきたが、生活支援、就労支援、家族への支援等連携することによって、相談者の属性、抱えている課題等に応じた役割分担ができるようになった。
- 家族のつどいを1年間実施してきた中で、当初は、家族がひきこもりのことを理解していないケースが見受けられたが、同じ立場の人の話を聴く中で、少しずつではあるがひきこもりを理解し、気持ちが変わりつつある人が出てくるなど、一定の成果はあげられたように思える。しかし、当事者の年齢が10代～50代と幅が広いと、話が合わないこともあった。そこで、令和6年度は不登校家族のつどいとひきこもりの人の家族の会は原則、分離開催しようと思っている。

5 今後の展望

不登校・ひきこもりの人及びその家族への支援は、個々の状況にもよるが、短期間で解決できるものではなく、長期間にわたる伴走型の支援になると認識している。

本会では、令和6年度以降も不登校・ひきこもりの人やその家族の初期相談窓口機能として、ひきこもり支援員を配置し、不登校・ひきこもりへの正しい理解について、広く市民に啓発していく必要があると考えている。

また、不登校・ひきこもりの人やその家族が「ほっとできる居場所」を提供し、行き場を失っている不登校・ひきこもりの人が社会とつながり、自分の居場所を見出すとともに、新たな第1歩を踏み出せるようなきっかけづくりになるような居場所づくりに努めていく。

そのために、居場所での見守り等の活動を通じて、不登校・ひきこもりの人及びその家族に寄り添って支援することを目的とした「ひきこもり支援サポーター」の養成を行う。

中・長期的視点としては、不登校・ひきこもりの人が居場所等を通じて、他者とのコミュニケーションが取れるようになり、自分の将来について見つめることのサポートを行い、就労やボランティア活動など個々に応じた社会復帰を目指した支援を行っていく。

次に、不登校・ひきこもりの人を持つ家族は、現在に至るまで様々な事情を抱え、状況の長期化に疲弊し、半ばあきらめの境地に陥ることも少なくない。

不登校・ひきこもり当事者のみならず、その家族の孤立化や、家族関係の悪化等により、ますます不登校・ひきこもり当事者を追い込み、深刻な問題とならないよう、家族同士がお互いに交流し、自分の想いを語り合うことでストレスを発散し、気持ちのゆとりを取り戻すことを目的とした「不登校・ひきこもりの人を持つ家族の会」を立上げ、定例会をこの居場所で開催する。

今後は、不登校・ヤングケアラーなどの支援に対して、相互に連携・協力しながら、課題解決に向けて進めていきたい。

担当者の声



大牟田市社会福祉協議会 ひきこもり支援員

中西 朋美（社協歴1年）

これまでの不登校の親の会活動の経験から、不登校問題に関してはそれなりに対応してきましたが、ひきこもり支援については、福岡県ひきこもり地域支援センター主催の「ひきこもり家族のつどい」に参加し、勉強しながらのスタートとなり、この1年様々な取り組みに関わってきました。また、岡山県総社市への視察研修にも行かせていただき、福岡県ひきこもり地域支援センターの職員の方々も含め繋がりができ、ひきこもり支援について相談できる場所が増え、とても心強く思っています。

「以前はひきこもりの相談に行っても、たらい回しにあうなど相談先に困っていたが、ようやく大牟田市にもこういう場が出来て良かった」と話して下さったご家族がおられました。が、「不登校・ひきこもりの人を持つ家族のつどい」を毎月開催することで相談窓口が明らかになり、同じ悩みを持つ家族の交流の場ができ、安心感に繋がってきたのではないかと思います。

ただ、参加者はまだ少ない状況であり、これから家族の会を立ち上げ、8月には新しい居場所を開設する予定で、そのチラシの作成も準備中であり、今後必要な方々に情報が届き、新しい居場所が不登校・ひきこもりの「初期相談窓口」の機能を持つような役割を果たしていきたいと思っています。

また、「つどい」の中でご家族の想いや悩みに触れ、状況が変わるには時間がかかると理解してはいるものの、長年培われてきた家族の価値観を変えていく難しさに直面しているのも事実です。その為にも、引き続き「つどい」を開催し、学習会を開催するなどして、ひきこもり当事者を受け入れ、家族関係が良くなるようにサポートしていきたいと思ひますし、なかなか価値観を変えることができない方々にも寄り添い、繋がりを持ち続け、孤立させることがないように配慮していきたいと思ひます。

そして、不登校・ひきこもりについてはまだまだ偏見もあることから、これからもひきこもり支援セミナーやサポーター養成講座などの学習の機会を作り、市民の皆さんの不登校・ひきこもりに対する理解者を増やしていきたいと思ひます。

今後も引き続き息の長いサポートを行っていくつもりですが、先進地の視察で学んだように行政をはじめ各関係機関との更なる協力・協働を図り、当事者やその家族に寄り添ったサポートを展開していきたいと思ひます。

社協データ

社会福祉法人 大牟田市社会福祉協議会

住 所 大牟田市瓦町9-3

TEL 0944-57-2519

FAX 0944-57-2528

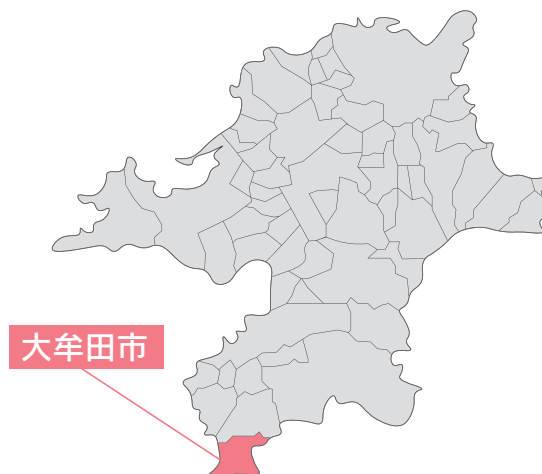
mail/ omshakyo@omshakyo.or.jp

HP/ <https://www.omshakyo-kizuna.com/>

○市データ(令和5年4月1日時点)

人 口 107,633人

世帯数 55,577世帯



大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議とは…

大牟田市ひきこもり支援ネットワーク会議は、ひきこもりの人及びその家族を支援する当事者や関係機関・団体等が、それぞれの持ち得る機能やネットワークを共有し、ひきこもり問題を抱える人を支援することを目的に、昨年6月に立ち上げました。大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議は、現在、11団体で構成され、事務局は、大牟田市社協が担っています。事務局：☎0944-32-8851

毎月、「不登校・ひきこもり家族のつどい」を開催している他に、10月中に以下の3事業(セミナー・進路相談会・意見交換会)を開催いたしました。



「不登校・ひきこもりの人を持つ家族支援セミナー」を開催しました！

10月3日に「不登校・ひきこもりの人を持つ家族支援セミナー」を開催しました。講師に教育文化研究所代表の長阿彌幹生(ちょうあみみきお)氏をお迎えし、「不登校・ひきこもりの基礎知識とその理解」をご講演いただきました。

当日は定員40名のところ、ひきこもりの人を抱える家族、主任児童委員をはじめとする支援者、教育関係者など、総勢58名の参加者がありました。

講演では不登校・ひきこもりの現状や背景の説明から始まり、長阿彌先生の体験談を交えた上で、本人や家族と向き合い支える「今の時代を生きている仲間」としての支援方法や基本姿勢を、分かりやすく説明していただきました。

今後不登校やひきこもり当事者とその家族に対する理解者が増えていくことを願い、『ひきこもり支援ネットワーク会議』の活動を進めて参りたいと思います。



「第8回 進路相談会」を開催しました！



高等学校紹介の様子



高校教諭による個別進路相談

10月15日に「第8回進路相談会～全日制じゃない高校ってどんなところ？～」を開催しました。当日は保護者、子ども、スタッフ含め約100名の参加がありました。

進路相談会は、2部に分けて開催しました。第1部では、定時制・単位制・通信制など8校の先生方から学校紹介をしていただきました。参加者は、熱心にメモを取りながら話を聞かれていましたが、特に通信制の現役高校生が話す場面になると、顔を上げて聞き入っている様子から、大きな関心が寄せられていることが窺えました。

第2部は個別相談を開催しました。第1部での説明を聞き、興味を持った学校のブースに足を運び、詳しく教育理念やカリキュラムなどの質問をされていました。相談件数は18件になりましたが、その他に現役高校生のブースにも多くの相談が寄せられていました。

この進路相談会をきっかけに、色々な選択肢があることが分かり、高校進学も含めてご家族で話し合い、ご本人の希望に合った道を見つけていただければと思います。

スクールソーシャルワーカーとの意見交換会を実施しました！

10月17日にスクールソーシャルワーカー(以下「SSW」)の高口恵美さんと井上由紀さんをお招きして、『ひきこもり支援ネットワーク会議』メンバーとの意見交換会を実施しました。

SSWとは、教育の分野に加え、社会福祉に関する専門的な知識や技術を有する者で、問題を抱えた児童・生徒が置かれた複雑な環境への働きかけや関係機関等とのネットワーク構築など、多様な支援方法を用いて課題解決への対応を図っていく専門家で、現在、大牟田市には7名のSSWが配置されています。

SSWの仕事内容や事例を踏まえて「大牟田市における子ども達を取り巻く現状について」の説明を受け、その後、質疑応答に移りました。この意見交換会に参加し、家族全体、そしてその家族を取り巻く環境全体に目を向けた上で、困りごとを把握していくことの大切さを再認識しました。今後は、不登校・ヤングケアラーなどの支援に対して、相互に連携協力しながら、課題解決に向けて進めていきたいと考えています。



資料 ②

講演

不登校・ひきこもりの人支援セミナー

「不登校・ひきこもりの基礎知識とその理解」

令和5年10月3日(火) 13:30~15:30

大牟田市総合福祉センター2F 大会議室(瓦町9-3)

「不登校・ひきこもり支援に関心のある市民」を対象に、
ひきこもり支援の基礎知識を学び、
理解することを目的としたセミナーを開催します。



講師 長阿彌 幹生さん

《講師プロフィール》
教育文化研究室代表
不登校よりそいネット実行委員長
不登校サポートネット代表
NPO子どもNPOセンター福岡常務理事
福岡・デンマーク友好協会理事

受講費
無料

対象

不登校・ひきこもり支援に
関心のある市民

定員

40名(先着順)

《申込方法》

“事前申込制”となっております。

電話申込は

①名前 ②連絡先 ③所属先をお伝えください。

【申込期限:9月20日(水)】

ネット申込はこちらから→



<https://forms.gle/EQrFHmYHWfUmiFc29>

「ひきこもって何だろう?」「私たちにできることは何だろう?」など

不登校・ひきこもり当事者を支える視点について学んでみませんか。
皆様の参加をお待ちしております。

主催:大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議

《 申込先・問合せ 》生活支援相談室(Tel:32-8851)まで。

資料 ③

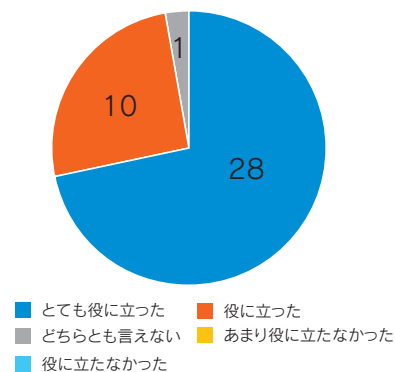
不登校・ひきこもりの人支援セミナーアンケート結果

参加者 41名＋ネットワーク委員及び事務局17名 / 計 58名

アンケート集約 39名

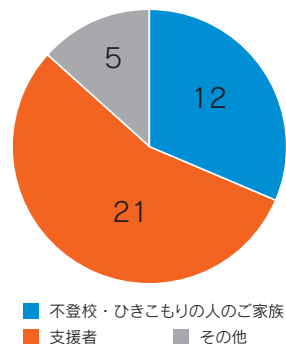
① 今回のセミナーの内容はいかがでしたか。

とても役に立った	28
役に立った	10
どちらとも言えない	1
あまり役に立たなかった	0
役に立たなかった	0



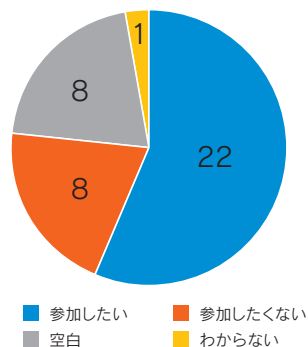
② あなたのお立場をお聞かせください。

不登校・ひきこもりの人のご家族	12
支援者 所属：中学校 1名、小学校 1名、民生委員・主任児童委員 7名、 訪問看護 3名、障害者生活支援センター 1名、相談支援事業所 2名、 市(福祉課 1名、保護課 1名)、包括支援センター 1名、 行政書士会 1名、社協2名	21
その他 市議、野外活動の指導者、ボランティア、不登校だった子の親、市民	5



③ 大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議では、今後引き続きひきこもりサポーター養成講座を実施していく予定です。参加を希望しますか。

参加したい (内1名は△記入)	22
参加したくない コメントあり (・今のところは・出来ない・日にち時間など都合が合えば参加したいと 思います・参加は控えます)	8
空白	8
わからない	1



④ ③で「1. 参加」を希望される方は、お名前の記入をお願いします。

名前の記入をされた方 19名

この欄にコメントを記載された方 5名

- 時間の都合があう時であれば可能です(参加したいに○)
- 参加したいが仕事の為参加できない日が多くあります(参加したいに○)
- 今回は友人の孫が不登校で心配して相談されました。ご本人も参加して欲しいと思いましたがご主人が急逝されたので、今回は私が少しでも理解して友人に伝えたいと思います(参加したいに○)
- すごく気になりますが、全10日の日程に参加ができません(参加したいに△)
- 都合が合えば参加したい。以前「ふきのとう」でお世話になりました(参加空白)

⑤ その他、困っていることやご意見等、自由に記入してください。

〈不登校・ひきこもりの人のご家族〉

- 子どもがひきこもって約10年。今日の内容で同感しましたが、とても終わりが見えてこないのが実感です。
- 最近、約1年家にいる長男が「就労支援」という言葉を口にしました。待とうと思います。どう接したらいいかのヒントをいただき、感謝しています。
- 子どもではなく自身がひきこもりつつあるので、共感できる話、参考になる話が多々ありました。視野が狭くなると思考力も低下しますが、生きるヒントになる話がたくさん聞けました。ありがとうございました。
- ありがとうございました。非常に参考になりました。
- 先生のお話大変考えさせられました。貴重なお話が聞けて良い時間でした。ありがとうございました。

〈支援者〉

- 訪問看護(精神特化)の知名度が低いため、つながりを持ちたいと思います。
- 以前福岡市にもおりましたので、そちらのセミナーにも参加させて頂きたいと思います。ありがとうございました。
- 子どもの自殺＝子どもの悩みに終止符を打つということだと思いますが、自殺の主な理由は自分のことなんだと驚きました。
- 今、ひきこもりや不登校の人たちも立ち寄れる場づくりを個人の立場でいろいろと模索しています。
- 育児力、子と向き合う力がかなり低下している。
- 大変、大変今後の参考になりました。
- ひきこもっている人の家族が周囲からのつながりを拒否し続ける家庭を見守り続けているが、なかなかつながれない。様々な人脈を使ってコンタクトを取っているが、家族の拒否が固い。
- 主任児童委員の活動の中、校区不登校児との向き合い方が分からない。児童は知っているが、保護者の方を知らないのどこまで寄り添っていいか分からない。

〈お立場をその他にマークした方〉

- 今の日本の政治・社会はひどい！ 孫の未来が心配です。
- とても分かりやすいセミナーでした。不登校・ひきこもりだけではなく、障害者、高齢者様たちも考えられるセミナーであったと思いました。共生社会といわれる現在何が必要とされているか？何を人として何をしなければならないかを再度考えさせられる時間でした。ありがとうございました。余談ですが、「空海」さんの考えと同じですね！！
- リアルタイムにひきこもりのご相談を受け、今後の為にも参考になりました。
- とてもいいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。
- 分かりやすい講話をありがとうございました。「あせらないで」と伝えます。

第8回 進路相談会

～全日制じゃない高校ってどんなところ？～

『高校』進学に対して不安を抱いている皆さん
実際に『高校』に進学したものの、馴染むことができず、
「このままでいいのか」と悩んでいる皆さん
そして、不登校の子を持つ保護者の皆さん

全日制の高校だけが『高校』ではありません！
定時制高校や通信制高校、そして通信制高校のサポート校など、
いろいろな学びのスタイルがあります。

不登校経験者が生徒の8割という高校、
発達障害の子に特化した高校もあります。

自分に、あるいは自分たちの子どもに合った
『高校』を見つけに来ませんか？



日 時：2023年10月15日（日）

13：00～16：30（12：30～受付）

場 所：大牟田市総合福祉センター 大会議室

参加費：無料 定 員：30名（申込不要）

満席の場合、別室での視聴となります。

※オンライン参加も可能（申込必須）

オンライン参加の方は、後日社会福祉協議会に来て
いただければ資料をお渡しいたします。
申込の詳細は裏面をご覧ください

感染症対策のため、マスクの着用をお願いいたします。
参加者多数の場合、1家族2名様までに
制限させていただく可能性があります。

途中からの
参加も
大歓迎です！



主催 大牟田ひきこもり支援ネットワーク会議
大牟田学校にいかない子を持つ親の会 ふきのとう

共催 カウンセリングルーム・フリースクール サポート校ソフィア

後援 ふくおかフリースクールフレンドシップ協議会

お問い合わせ：大牟田市社会福祉協議会 生活支援相談室（担当：中西）

TEL：0944-32-8851

MAIL：soudan@omshakyo.or.jp

プログラム

13:00 開会のあいさつ

13:05~15:20 第1部 学校紹介 (参加予定校)

- ・ 三池工業高等学校 (定時制高校)
- ・ 立花高等学校 (全日制・単位制)
- ・ 大牟田北高等学校 (単位制・フレックス型)
- ・ 明蓬館高等学校

博多SNEC

川崎町安宅本校舎所属コース

有馬高等学校/明蓬館久留米STEC

休憩 (10分)

- ・ 星槎国際高等学校 (通信制高校)
- ・ 勇志国際高等学校 (通信制高校)
- ・ サポート校 ソフィア
- ・ 柳川高等学校 (通信制課程)

15:20~15:30 質疑応答

15:35~16:30 第2部 個別相談

オンライン参加をご希望の方 参加申込〆切: 10月1日(日)

Zoomにて実施します。

個別相談への参加はできませんのでご了承ください。

QRコードより申し込みをお願いします。

お申し込みの際に記入していただいたメールアドレスへ

1週間前までにZoomのID・パスワードをお知らせいたします。

メールが届かない場合、お手数ですがご連絡をお願いいたします。



※〆切を過ぎて申込をされる方は、QRコードからではなく

メールにて申し込みをお願いいたします。

第8回進路相談会 アンケート集計結果

【生徒】

対象者 17名中 アンケート回収 12名 (回収率 70.6%)

1. 性別 男 5名 女 7名 計 12名

2. 年齢 10代 12名 計 12名

3. 立場 生徒 12名 計 12名

4. 進路相談会の開催をどこで知りましたか？

友人・知人 6名 愛情ネット 1名

その他 5名(学校2名・保護者2名・カウンセラー 1名) 計 12名

5. 進路相談会はいかがでしたか？

とても良かった 5名 良かった 7名 計 12名

6. ご意見・ご感想などを自由にお書きください

● 分かりやすかった。

● とても分かりやすい説明で、興味がわいてきました。本日はありがとうございました。

● 話を聞きたい高校のことを聞けたので、とても良かったです。他校の話でも、校内、授業、生徒の話を聞いて良かったです。

7. 不登校に関する定例会やイベントのお知らせを希望する

はい 2名 いいえ 8名 空白 2名 計 12名

8. 7.で「はい」と答えられた方は連絡先をご記入ください

2名記入

【保護者】

対象者 46名中 アンケート回収 34名 (回収率 73.9%)

1. 性別 男 8名 女 26名 計 34名

2. 年齢 30代 1名 40代 17名 50代 14名
それ以上 1名 空白 1名 計 34名

3. 立場 保護者 34名 計 34名

4. 進路相談会の開催をどこで知りましたか？

友人・知人 8名 チラシ 6名 愛情ネット 3名

その他 18名(学校7名・通級1名・カウンセラー 1名・広報1名・社協内ポスター 1名・
母子会2名・ふきのとう3名・空白2名)

計 35名 (複数回答あり 1名)

5. 進路相談会はいかがでしたか？

とても良かった 11名 ・ 良かった 18名 ・ どちらでもない 1名 ・ 空白 4名

計 34名

6. ご意見・ご感想などご自由にお書きください

〈5. とても良かった〉

- それぞれの学校等の特色が少し分かりました。様々なサポートがされてあるので子どもを大切に教員されてあることがよく分かりました。パンフレットも後でよく読ませていただきます。
- 各校について詳しく知ることができ、大変良かったです。
- 通信制のこと、学校の特徴を聞くことができた。
- 大変参考になりました。実際の先生や生徒さんのお話を聞いたのが貴重でした！
来年は子どもと一緒に来られたら…と思いました。Zoomで見られるようにしていただいたのも良かったです。ありがとうございました。
- 在校生のお話が聞けてすごく良かったです。進路を決めるきっかけや入学後の事など参考になりました。ありがとうございました。
- 今回中2の娘と来ました。また来年も来たいと思います。
- 分かり易く短時間で説明して頂きとても良かったです。

〈5. 良かった〉

- 学校からもらっているパンフレットだけじゃわからなかったのですが、今日気になっていた高校の話が聞けて良かったです。
- 学校各々の特色があるので、高校の選択肢は増えたかと思います。
- 相談できる場所がわかって良かったです。
- 行ける所があるのか不安です。入試試験出来るのか？どの位出席しておけば入れるのか？
→ 連絡先の記載無し
- 知らないことがたくさんあり、勉強になりました。

〈5. 無記入〉

- 本日はありがとうございました。ゆっくり進路の事考えていこうと思います。
- 色々な学校を知ることができて助かりました。
- 分かりやすく説明してもらい、ありがとうございました。

7. 不登校に関する定例会やイベントのお知らせを希望する

はい 12名 いいえ 17名 空白 5名 計 34名

8. 7.で「はい」と答えられた方は連絡先をご記入ください

13名記入

人生あんしん事業 ～あなたらしい将来を迎えるために～

社会福祉法人 久留米市社会福祉協議会

1 事業の目標

- 誰もが安心して地域で長く住み続けるために、一人ひとりを支える仕組みづくりを行う
- 不安を抱えている方などを対象に、死後事務を行うことで「自分らしく人生を終えられる」お手伝いをする

2 現状把握

【現 状】

高齢社会に加え、家族の希薄化も進み、従来のような家族が支える仕組みは変わりつつある。今まで家族等が行ってきたことを自ら行う必要が生じ、葬儀も含め、死後の手続きや財産の処分などの手続きを行う者がいないことが現代の課題となりつつある。民間業者やNPOが同様の事業を行っているが、様々な理由から利用されない方がいる。

【地域資源】

- | | | |
|---------|---------|-------|
| ●弁護士会 | ●葬儀会社 | ●行政 |
| ●司法書士会 | ●家財処分会社 | ●民間業者 |
| ●社会福祉士会 | | |

3 具体的な活動内容・活動効果

活動内容

(1) 令和6年度の事業実施に向けた社協内及び市関係課との協議

ア 事業プロジェクトチーム会議

開 催 日／随時（プロジェクトチーム内での会議の他、所管課長・事務局長・
常務理事との協議を含む）

場 所／久留米市総合福祉センター内会議室

参 加 者／社協職員（主事級）4～14人

【活動効果】

- 当社協では、主事級職員のみでの会議を令和3年度から不定期で開催している。その中で、新たな取り組みとして本事業を行いたいという意見が出て、令和4年度にプロジェクトチームを発足した。
- 随時、話し合いや管理監督職級への説明、行政を含めた外部への説明を行った。また、先行した取り組みを行っている福岡市社協などに聞き取りを行った。
- ボトムアップで取り組みを進めたことで、職員の士気が上がった。
- 令和5年度末からは、新たなプロジェクトチームが発足し、主事級職員で取り組んでいる。

イ 社協全体(主に管理職級)への説明

開催日／管理職級への説明：令和5年6月2日、令和6年2月15日
(令和4年度中に1回実施)

監督職級への説明：令和5年6月19日

場所／久留米市総合福祉センター内会議室

参加者／約15人

【活動効果】

- 管理監督職から意見をもらうことで、事業内容を深めることができた。
- 外部への説明に備えて想定問答を作成し、対応することができた。
- 主事級会議の役割や効果を認識する場となった。

ウ 市への説明(社協の所管部局や今後関係がある課)

開催日／令和5年7月3日、令和5年11月17日、令和6年2月2日

場所／市役所

参加者／5～14人

【活動効果】

- 事業概要の共有ができた。
- 方向性の確認ができた。
- 役割分担の整理ができた。
- 課題の抽出ができた。



健康福祉部への説明の様子

(2) その他の協議・取組み

ア 以前から成年後見センター事業で相談業務を委託している法律事務所や、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会に事業への協力依頼

(ア) 法律事務所

開催日／令和5年12月18日、令和6年3月5日

会場／法律事務所

【内 容】

- 本事業の実施要綱及び契約書等の確認依頼
- 本事業に関する相談委託契約の依頼

【活動効果】

- 実施要綱等の確認ができた。
- 相談業務についての了承を得た。

(イ) 弁護士会

開 催 日／令和5年12月20日、令和6年3月22日

会 場／福岡県弁護士会筑後部会

【内 容】

- 審査会委員の推薦依頼
- 公正証書遺言を作成する場合の対応について確認

【活動効果】

- 審査会委員について了承いただいた。
- 弁護士会の中で、人生あんしん事業（公正証書遺言作成等に関する相談）に対応できる弁護士の名簿を作成いただく。
→社協から弁護士会につなぐ際は、名簿にある弁護士の時間帯に合わせて社協が予約をとる。初回相談は社協が同席する。

(ウ) 司法書士会

開 催 日／令和6年1月22日

会 場／福岡県司法書士会筑後支部

【内 容】

- 審査会委員の推薦依頼
- 公正証書遺言を作成する場合の対応について確認

【活動効果】

- 審査会委員について了承いただいた。
- 公正証書遺言を作成する場合の流れを確認した。

(工) 社会福祉士会

開催日／令和6年1月22日
会場／福岡県社会福祉士会

【内 容】

審査会委員の推薦依頼

【活動効果】

審査会委員について了承いただいた。

イ 地域包括支援センターや介護サービス事業者協議会への説明**(ア) 地域包括支援センターへの説明**

開催日／令和6年2月2日
場所／包括本部

【内 容】

- 本事業の説明
- 緊急通報システムを相談者に案内することについて
 - ※緊急通報システムとは…一人暮らしの高齢者や身体障害者の方に対し、緊急通報機器を貸与することで生活の安全を確保するサービス。(久留米市独自)

【活動効果】

- 緊急通報システムの案内について了承いただいた。
- ケアマネへの説明を依頼された。

(イ) 久留米市介護福祉サービス事業者協議会への説明

開催日／令和6年3月26日
場所／介護福祉サービス事業者協議会事務所

【内 容】

- 本事業の説明
- 緊急通報システムを相談者に案内することについて

【活動効果】

- 緊急通報システムの案内について了承いただいた。
- 令和6年度、再度役員等に対し、説明を行う予定。

(ウ) 事業周知のためのリーフレット作成

資料①(P25～28)参照

【内 容】

市民、行政、関係機関等に周知するためのリーフレットの作成

【活動効果】

- 行政や関係機関等への事前説明のために活用した。
- 市民には、令和6年4月以降に校区社協、民児協、まちづくり連絡協議会等に説明する予定。
- 行政窓口等にもリーフレットを配架する予定。

(エ) 市内に本社をもつ葬儀会社(7社)への事業説明

【内 容】

- 7社を訪問し、事業説明
- 葬儀費用の事前見積書作成及び死後の葬儀の可否の確認
- 相談者への企業情報提供の可否の確認

【活動効果】

- 7社すべてから協力を得ることができた。
- 相談者への紹介用のリストを作成した。

(オ) 市の「一般廃棄物収集運搬業許可業者(家庭系)名簿」に掲載されている39事業者に事業への協力依頼を郵送

【内 容】

- 本事業の説明
- 家財・生活用品等の処分費用の事前見積書作成及び死後の処分の可否の確認
- 相談者への企業情報提供の可否の確認

【活動効果】

- 17事業者から同意を得てリストを作成した。
- ※事業実施は令和6年度のため、地域住民への説明は行っていない。

4 地域等の変化

活動当初のねらい

- **選択肢の一つとして選ぶことができる。**

民間業者では高額で契約できなかった方が利用でき、民間業者には不安を抱えていた方にとっても選択肢の一つとして幅が広がる。

- **賃貸住宅入居、高齢者施設へ入所がしやすくなる。**

身寄りがいないことで契約できなかった方も、当事業を契約し社協を緊急連絡先として指定できることで、入居や入所の可能性が広がる。

- **他の制度・サービスや必要な社会資源につながる。**

社協が事業を行うことで、本人が抱える課題に気づき、必要な資源につなげることができる。また、本人の強みを活かした活動につなげることできる。

地域等の変化

- 行政や関係機関等に説明する中で、本事業が必要であるという共通認識を図ることができた。

- 実際に各窓口で死後事務に関する相談が寄せられており、現状はNPO等を案内しているが、費用面や運営面に不安を感じている人もいたということが分かった。

- 社協が本事業を行うことは、行政や関係機関等にとっては安心感につながる。

- 社協が本事業を行う意義として、地域とのつながりづくりという社協の強みを活かし、契約者が孤立しないように地域の居場所につなげるなどの取り組みが今後求められてくると感じた。

- 今まで社協のことを知らなかった人たちに、本事業を通して、社協を知ってもらうきっかけになる。

5 今後の展望

- 民生委員児童委員、ふれあいの会（地域のボランティア団体）などの定例会で事業周知を行う。

- 行政や関係機関に、リーフレットの配架や相談があった場合の紹介を依頼する。

- 市社協広報紙への継続的な掲載をする。 資料②(P29)参照

- 契約者を増やし、いずれは利用料で事業を運営できるようにする。

- 令和6年4月以降に地域包括支援センターの管理者へ説明を行う予定。

- 今後、頼れる親族がいない人は増加すると見込まれる。そのような人が住み慣れた地域でできるだけ長く暮らせるように、制度・サービスの利用だけでなく、地域住民同士の支え合いにもつなげられるように、地域の居場所や関係機関等へのつなぎを行っていく。

担当者の声



久留米市社会福祉協議会
田中 亜依（社協歴6年）

新規事業の立ち上げだったので、手探りでスタートしました。プロジェクトチームの会議、社協内での会議、行政や関係機関への説明など、何度も話し合いを重ねて、事業内容を決めていきました。令和5年度は水害もあり、事業への話し合いができない期間もありましたが、何とか令和6年度から事業を開始することになりました。

市関係課や地域包括支援センターと協議する中で、「支援してもらえる親族がおらず、民間サービスを利用するほど経済的な余裕もない」などの理由から将来に不安を抱えている人が多いことが分かりました。死後事務に関する業務は法律の知識を求められることも多く、事業を実施するなかで知識を深めたいと思います。

身寄りのない高齢者の増加は社会問題となっています。社協として、ただ単にサービスの提供にとどまらず、孤立しない地域づくりにつなげられるよう、弁護士などの専門職の意見をいただきながら、必要な方に支援を届けられるように事業を行ってまいります。

社協データ

社会福祉法人 久留米市社会福祉協議会

住 所 久留米市長門石1-1-34

TEL 0942-34-3035

FAX 0942-34-3090

mail/ s-syakyo@heartful-volunteer.net

HP/ <https://www.heartful-volunteer.net/>

○市データ(令和5年4月1日時点)

人 口 301,612人

世帯数 140,549世帯



資料 ①

終活 事業始めました。



人生あんしん事業

～あなたらしい将来を迎えるために～

身寄りがいない…

親族にお願いできない…

将来のことが不安だ。

でも…どうしたら？



コーディネーターが
あなたの人生をコーディネート！



わたしたちにご相談ください！

誰もが安心して地域で住み続けられるようお手伝いします。



久留米市社会福祉協議会



人生あんしん事業



超高齢社会を迎え、支える家族もない、
自分が死亡した後はどうなるだろう…など
不安を抱えている方などを対象に、**死後事務を行
うことで「自分らしく人生を終えられる」**
そんなお手伝いをします。

下記の条件を満たす方が事業の対象となります。

- ① 久留米市内に居住する 75 歳以上の方、または慢性疾患等がある 65 歳以上の方
- ② 契約能力を有している方
- ③ 支援できる親族がいない方
- ④ 生活保護を受給していない方

※原則すべての条件を満たす方とします。

実施するサービス

① 預託金によるサービス

事前に預託金をお預かりし、葬儀・家財処分などを実施します。

② 見守りサービス

2 週間に 1 回の電話による様子観察、3 ヶ月に 1 回の定期訪問による
状況確認をします。

利用料金

- | | |
|-----------|------------------|
| ① 入 会 金 | 15,000 円 (初回のみ) |
| ② 年 会 費 | 10,000 円/年 |
| ③ 預 託 金 | 別途見積り (葬儀・家財処分等) |
| ④ 見守りサービス | 無 料 |
| ⑤ 事業着手金 | 預託金の 1 割 |

契約までの流れ



めやす

1週間

↓

1ヵ月

相談受付

久留米市社会福祉協議会にご連絡ください。
面談の日程を調整します。



面談

久留米市社会福祉協議会にお越しください。
担当職員が相談を受け付けます。
相談にあたってはプライバシーに配慮し
秘密は必ず守ります。



葬儀
納骨先の
決定

困っていることや希望をお聞きし、
相談者に合った葬儀の形式や納骨先について
一緒に考えます。

※預託金以外に費用が発生する場合があります。



家財処分
の見積り

担当職員と業者が相談者の自宅を訪問し、
家財処分の見積りをします。



遺言作成
(公正証書)

必要に応じて担当職員が相談に応じます。

※公正証書の作成にかかる費用は相談者の自己負担です



契約

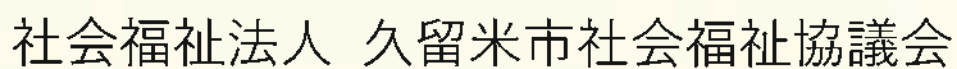
相談者と久留米市社会福祉協議会が
死後事務の委任契約を結びます。



契約後の
支援

2週間に1回の電話による様子観察や
3ヵ月に1回の定期訪問を行います。





(土・日・祝・年末年始を除く)

資料 ②

久留米市社協広報誌「くるめ福祉 令和6年7月号 No.191」(抜粋)

くるめ福祉 7



人生あんしん事業始めました

終活とは？

終活とは、人生の最期に向けて行う事前準備のことです。
例えば、財産や身のまわりの整理、葬儀やお墓の準備などがあります。



ます。そのほか、死後の手続きのために必要な情報や家族などへのメッセージを書き残す「エンディングノート」の作成は、誰でもすぐに取り組める代表的な終活のひとつと言われており、具体的な内容は人によって異なります。

人生あんしん事業

亡くなった後の手続き等は親族が行うのが一般的ですが、一人暮らしの高齢者が増え、支援できる親族が身近にいないことも増えています。

そこで、市社会福祉協議会では、令和6年4月から終活事業「人生あんしん事業」を始めました。



自宅で説明を行っている様子

この事業は、契約の締結から終結まで、長期にわたることが想定されます。契約者の状態に変わりがなければ、何か困りごとがないかなどを確認することも重要となるため、死後事務だけでなく、見守り

も行います。

また、地域での生活について一緒に考えながら、意向に応じて地域の集まりや活躍できる場などにつなげ、孤立することがないように支援します。

さらに、認知症などによりご自身での生活が難しくなっても、関係機関と連携し介護保険サービスにつないだり、市社会福祉協議会が実施する他の事業によって、安心して生活を続けていけるようお手伝いします。

本事業は、契約者が亡くなった後の手続きに関する重要な事業のため、相談に来られた人と一緒に時間をかけて考えながら進めていきます。関心がある人はまずは市社会福祉協議会にご相談ください。

学びなおし応援セミナー

社会福祉法人 筑後市社会福祉協議会

1 事業の目標

- ひきこもりをはじめとした青年や生きづらさを感じる若者世代に向けて、リスキリングの機会を提供することで人生の選択肢の幅を広げる。
- 販売、接客の体験をして、次のステップを意識するきっかけをつくる。

2 現状把握

【現 状】

筑後市社協では、約10年前からひきこもり者支援に取り組んでいる。本人の活動の場として「ふらっとスペース」を年間100日開設しているが、活動がマンネリ化しつつある点、更なるステップアップにつながらない参加者もいる点が課題である。同時に、ひきこもり家族会支援においても、状況が変わらないという会員も多いことから、何かしらの仕掛け（きっかけの提供）が望まれている。そうした点から、“敷居の低い学習会”を企画し、チラシ等で広報して学びの場を提供するとともに、ふらっとスペースを会話の糸口としたいと考えている。

また、ひとり親家庭への支援をここ数年強化している。コロナ特例貸付を利用したひとり親家庭の75%が無職または非正規雇用であった。こうした人たちの学びなおしの機会としても活用し、ひとり親家庭の人生の選択肢が増えるように考えている。

【地域資源】

- ふらっとスペース 資料①(P36)参照
- 介護家族の会
- ボランティア連絡協議会会員
- 精神障害の人と家族の集い
- ひきこもり家族会「サルビアの会」

3 具体的な活動内容・活動効果

活動内容

(1) 学びなおし応援セミナー

これからの新たなステップやスキルアップを目指したいと考えている方や迷っている方が、今後の人生における選択肢の幅を広げることができるよう応援する。

場 所／筑後市総合福祉センター

対 象 者／フリースペース&内職シェアスペース「ふらっとスペース」の参加者や不登校・ひきこもり家族会「サルビアの会」の会員や生きづらさを抱える青年等

周知方法／チラシを作成し、ひきこもり家族会の「サルビアの会」へ郵送、精神障害の人と家族の集い「ひまわりのつどい」の参加者へお渡しし、ひとり親家庭向け公式LINEでの情報配信を行った。

- ひきこもりや生きづらさを感じる人たちにとってのリスクリングの機会となる計6回の学びなおし応援セミナーの開催

資料②(P37)参照

ア 第一印象を良くする方法

開 催 日／令和5年10月15日

内 容／笑顔の練習、姿勢、服装などについて

講 師／永野貴美恵さん（介護家族の会「コスモス」会員、イメージコンサルタント）

参 加 者／3人



セミナーの様子

イ 接客・マナー・待遇の学習

開催日／令和5年11月12日

内容／挨拶、言葉遣いなどについて

講師／永野貴美恵さん（介護家族の会「コスモス」会員、イメージコンサルタント）

参加者／4人

ウ 心が疲れた時のセルフケアの方法

開催日／令和5年12月10日

内容／①メンタルヘルスの回復のために活用されているWRAP（元気回復行動プラン）のツールの一つである「日常生活管理プラン」の体験
②自分が元気であるために役立つこと（普段していること）を振り返り、全体で共有

講師／山中康弘さん（「ひまわりのつどい」、WRAPファシリテーター）

参加者／9人



セミナーの様子

エ 上手なコミュニケーションのコツ

開催日／令和6年1月14日

内容／良いコミュニケーションをとるための、言語・非言語のコミュニケーション、相手に伝わる挨拶の方法、話の聴き方などについて

講師／小野裕子さん（日本ほめる達人協会認定講師）

参加者／9人

オ コーヒーの淹れ方講座

開催日／令和6年2月18日

内容／**力**の実体験に向け、コーヒーの種類や器具の使い方、美味しい淹れ方について学ぶ

講師／山中康弘さん（「ひまわりのつどい」、WRAPファシリテーター）

参加者／2人

カ 実体験！一日カフェをやってみよう

開催日／令和6年3月16日

内容／ボランティア連絡協議会と社協共催イベント「ふれあいひろば」内マルシェで、挽きたてドリップコーヒーの提供を行う接客の1日体験

参加者／3人



マルシェの様子



【参加者の声】

- これからアルバイトを始めるので挨拶の仕方など勉強になった。
- 実際に接客をしてみて、お客さんとの会話が楽しかった。
- 現在、育休中で仕事復帰が不安だったので、セミナーに参加できて良かった。
- 改めて自分を客観的に捉えて、自分と向き合う機会になった。
- これから次のステップに進んでいく上で、どうやって自分の気持ちを保っていけるか考える事ができて良かった。

【活動効果】

- ふらっとスペースの参加者で、主に内職を行っていた方がマルシェなどの出店時に参加を呼び掛けると小物販売やディスプレイ準備などを積極的に行うようになった。
- 前職で人間関係などを理由に退職後、数年間ひきこもっていた30代の男性が、アルバイトにつながり、現在は正社員を目指しフルタイムで勤務している。また、彼をきっかけに他の参加者にも良い影響があり、作業所などにステップアップする方もおられた。
- 長年ひきこもっていた方に、一日カフェの実体験でイベントに参加してもらったが、疲弊されており、人前に出ること、大人数の中に入ることに苦手をかかえているという課題も分かった。

4 地域等の変化

- 講師は、筑後市の当事者団体やボランティア団体に所属しており、当事者ならではのお話が、受講生にとって寄り添った内容であったため、共感されている様子であり、その後の交流にも繋がった。
- 第6回目の「実体験！一日カフェをやってみよう」は、筑後市ボランティア連絡協議会と社協共催のイベント「ふれあいひろば」で行った。さまざまな作業所などの福祉団体と一緒にブースを出すことで、この取り組みや「ふらっとスペース」を知ってもらうことができた。

5 今後の展望

- フリースペース&内職シェアスペース「ふらっとスペース」の参加者で、カフェ運営を行う。「ふらっとスペース」へ長期間継続して参加されている方が、次のステップへ踏み出すきっかけとなるよう、接客などの経験ができる場とする。まずは、福祉センター内での提供、イベント時の出店などを行う。
- 本事業をきっかけに、地域の方に福祉センターを知ってもらい、多世代が集い、つながり合う居場所となるよう取り組む。
- 地域担当の職員だけでなく、多職種の職員が関わりながら活動を進め、協働する体制をつくることができた。今後も、地域共生社会の実現に向けて取り組む。

資料 ①

ご利用にあたって

開設日時	毎週水曜日・金曜日 (年末年始・盆・祝祭日を除く) 時間はいずれも14:00～16:00
利用料	無料
利用登録	事前の申し込みは必要ありません。 氏名・住所・電話番号等をスタッフが お聞きします。
年齢	特に年齢制限は設けていません。
ルール (決まり事)	①特にプログラムがあるわけではありません。 ②何かをする自由もありますし、何 もしない自由もあります。 ③人の話や考えを否定しないよう にしましょう。 ④自分の考えを押し付けないよう にしましょう。 ⑤ここで聞いた話は誰にも話さな いようにしましょう。 ⑥必ず来なければならない、という 場ではありません。自分の体力に 合わせ、来たいときに来てくださ い。
スタッフ	筑後市社会福祉協議会の職員が常 駐しています。ご相談等もお気軽に どうぞ。

お問い合わせ

フリースペース & 内職シェアスペース ふらっとスペース

〒833-0032 筑後市野町680-1
筑後市総合福祉センター内

社会福祉法人 筑後市社会福祉協議会

TEL 0942-52-3969

FAX 0942-53-6677

<http://www.chikugo-shakyo.or.jp/>

- 開所日 毎週水・金曜日 14:00～16:00
- 電話受付 8時30分～17時15分まで(平日のみ)
(FAXは24時間受付)

アクセス



フリースペース & 内職シェアスペース

ふらっとスペース

1人ではなかなか前に進めなくても、
仲間と一緒に前を進めるかも・・・。
一度、ふらっと来てみてませんか？

社会福祉法人 筑後市社会福祉協議会

ふらっとスペースはこんなところ…

●あなたの居場所の一つ

家以外であなたの居場所がありますか？

今、あなたが気軽に使える、気軽に立ち寄れる
居場所がなかったら、ここをあなたの居場所の
一つとして使ってください。

●話せる場所

最近、会話をしていますか？

最近誰とも話していない、家族ともあまり話さな
いなあという方は、ここに来る色々な人と、趣味
の話や思い出話、悩みなど話してみませんか？

●仲間づくりの場所

学校や仕事が離れると、友だちからも離れてい
ませんか？同じ立場の人、違う年代の人、同じ
価値観、違う価値観の人とふれあうことで、新た
な発見が生まれるかもしれません。

●働く準備をする場所

プランクがあって、「自分にできるかな？」と仕事
に就くの不安がありませんか？ふらっとスペー
スには「内職」があります。作業を通して、働く準
備をしてみませんか？

開所日は…毎週水曜日・金曜日14:00～16:00

(年末年始・盆・祝祭日はお休みです)



- ◎自宅から外に出る機会が少ない方。
- ◎外には出るが人との会話が少ない方。
- ◎何かきっかけがほしい方。

- ◎引きこもりがちになっている方。
- ◎長い期間仕事に就けていない方。

ふらっと来てみてください。

フリースペース

家以外の居場所の一つとして…。マンガ本、
ゲーム機器、卓球台等を設置しています。



内職スペース

ここには内職(仕事)があります。わざわざで
すが、仕事量に応じて工賃をお渡ししています。



イベント

季節に応じてイベントを行うこともあります
(食事会、カラオケetc…写真は団子づくり)。



こんな物も作っています

ヘアゴムやくるみボタンを作成して、社協受
付やマルシェ、イベントなどで販売しています



資料 ②

「これから」を考えている方へ



学びなおし応援セミナー



これから新たなステップやスキルアップを目指したいと考えている方や迷っている方が、今後の人生における選択肢の幅を広げることができるよう応援するために、このセミナーを開催します。

第1回 第一印象を良くする方法

2023年
10月15日(日) 10:00～12:00

■ 講師：永野 貴美恵さん（イメージコンサルタント）

第2回 接客・マナー・接遇の学習

11月12日(日) 10:00～12:00

■ 講師：永野 貴美恵さん（イメージコンサルタント）

第3回 心が疲れた時のセルフケアの方法

12月10日(日) 10:00～12:00

■ 講師：山中康弘さん（WRAPファシリテーター）

第4回 上手なコミュニケーションのコツ

2024年
1月14日(日) 10:00～12:00

■ 講師：小野裕子さん（日本ほめる達人協会認定講師）

第5回 コーヒーの淹れ方講座

2月18日(日) 10:00～12:00

■ 講師：山中康弘さん（WRAPファシリテーター）

第6回 実体験！一日カフェをやってみよう♪

3月16日(土) 10:00～15:00

ふれあいひろば(※)でコーヒーを提供します



※ボランティア連絡協議会と社会福祉協議会共催のイベントです

- 会 場：筑後市総合福祉センター 2階研修室・大会議室他
- 定 員：15名程度
- 申込み：お電話か申込みフォームより
- 対 象：これからステップアップしたい方、迷っている方
対人関係などスキルを身に着けたい方、
学びなおしを考えている方など

※関心がある回、参加できる回のみ参加可。



↑ 申込みフォーム

参加費
無 料

託児あり
(要予約)

【お申込み・お問い合わせ先】

社会福祉法人 筑後市社会福祉協議会(〒833-0032 筑後市野町680-1)

TEL/0942-52-3969 FAX/0942-53-6677 mail/info@chikugo-shakyo.or.jp

令和5年度地域共生社会づくりのための市町村社協活動支援事業 実施要綱(抜粋)

1 目 的

市町村社会福祉協議会（以下 市町村社協）が、地域共生社会の実現に向けて、地域住民や関係機関と連携・協働して地域支援や個別支援に取り組む活動に対して、支援することを目的に実施します。

2 指定対象

(1) テーマ

『地域共生社会の実現に向けた、人と人とのつながりを支援する活動』

少子高齢化が進み、地域社会における人間関係の希薄化や家族形態の変容を背景に、孤独死やゴミ屋敷、不登校、ひきこもり、8050問題等、現行制度だけでは対応が困難な、複合的な地域生活課題が増加しています。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、格差や貧困の拡大だけでなく、社会や他人との接点が少なくなったことによる社会的孤立が深刻化しています。

支え手と受け手、人と資源が循環し、誰もが役割と生きがいを持って暮らせる地域共生社会の実現を目指して、これらの課題を抱えた人達を支援するためには、①具体的な課題解決を目指すアプローチ（問題解決型支援）と②つながり続けることを目指すアプローチ（伴走型支援）の“両輪”による取組が求められます。

社協はこれまでも、地域住民や関係機関と連携・協働しながら地域福祉活動に取り組んできました。住民主体の視点を持ちながら専門的支援が可能な社協は、「協働の中核」としての役割を発揮し、幅広い関係者の参加と協働により、困りごとを抱える本人・家族に対して一体的な支援を行うことが可能です。

そこで、社会的孤立や複合化した課題を抱えた人を支援するために必要な「つながり」の視点に着目し、市町村社協が取り組む事業に助成することで地域基盤の強化、ひいては地域共生社会の実現に資することを狙いとしています。

(2) 対象とする事業

上記テーマに沿って、各社協で新たに取り組みたい・挑戦したい事業や、既存事業でさらに発展させたいと考えている事業。

<事業の例>

断らない支援	×	組織強化	=	社協内研修の実施
単身高齢者	×	安心した暮らし	=	死後事務サポート事業

ひきこもり支援	×	社会参加の場づくり	=	農業体験
社 協	×	企 業	=	買い物支援、フードドライブ
福祉教育	×	生活困窮者支援	=	小中学生を対象としたお金に関する講座
外国人	×	生活支援	=	外国人向け福祉サービスパンフレットの作成

（３）対象外の事業

- ア 同様の事業に対して行政からの補助がある場合
- イ 従来 of 事業をそのまま申請する場合
- ウ 事務費のみを申請する場合（備品・消耗品の購入が大部分を占める等）

３ 助成額及び期間

（１）助 成

- ア 助成額 １社協 最大２０万円
- イ 助成数 助成総額８０万円の範囲で、各市町村社協からの申請内容に応じて決定します。

（２）助成期間

- １年間（同一事業の場合は最大３年間）
- ※令和５年４月１日から遡って適用

４ 助成対象経費

運営に必要な下記の経費を対象とします。

諸謝金、旅費交通費、消耗器具備品費、印刷製本費、通信運搬費、会議費、車両費、手数料、保険料、賃借料、雑費

※市町村や他団体から補助・助成を受けている経費と重複しないようにすること

５ 申請について

（１）申請手続き

助成を受けようとする市町村社協は、下記書類を本会へ提出してください。

（２）申請書提出期限

令和５年５月８日（月）

【提出書類】

- ・ 申 請 書 (様式第 1－①号)
- ・ 事業計画書 (様式第 1－②号)
- ・ 年間スケジュール表 (様式第 1－③号)
- ・ 収支予算書 (様式第 2 号)

(3) 申請にあたっての留意事項

- ア 記載項目は、十分検討した上で、明確かつ具体的に記載してください。
- イ 予算は、事業計画を反映したものとし、必要な経費を計上してください。
- ウ 物品購入に関しては、その物品の継続的な活用方法について具体的に記載してください。

6 選定方法

- (1) 申請内容及び助成金額を本会で精査し、決定します。
- (2) 選定結果については、令和 5 年 5 月下旬に文書で通知します。

7 そ の 他

助成を受けた社協は、助成終了後に実績報告書を提出いただきます。
また、本会作成の報告書や研修会等における実践報告に御協力いただきます。

8 個人情報の取扱い

本事業で得た個人情報は、本会が実施する事業に必要な範囲内で適正に使用します。

9 書類提出及び問い合わせ先

福岡県社会福祉協議会 地域福祉部 地域・ボランティアセンター 担当 田中
〒816-0804 春日市原町3丁目1-7 クローバープラザ6階
TEL 092-584-3377 FAX 092-584-3369
Mail chiiki-vc@fuku-shakyo.jp

令和6年度

https://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険

検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン
保険金の種類			
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)
	入院保険金日額		6,500円
	手術保険金	入院中の手術	65,000円
		外来の手術	32,500円
	通院保険金日額		4,000円
	特定感染症		補償開始日から補償 ^(*)
	地震・噴火・津波による死傷		×
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

商品パンフレットは
こちらから



(ふくしの保険
ホームページ)

*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

令和5年度

地域共生社会づくりのための市町村社協活動支援事業報告書

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

〒816-0804

福岡県春日市原町3-1-7 クローバープラザ6階

TEL 092-584-3377 / FAX 092-584-3369

H P <http://fuku-shakyo.jp/>

発行 令和6年(2024)年9月